会報 ともしび

発行所
一般財団法人
広島県動員学徒等犠牲者の会
事務局
広島市南区比治山本町12-2
広島県社会福祉会館内
〒732-0816　電話(082)252-0316
印刷所　Taisei

デジタルブック
“慟哭の証言”
http://www.douingakuto.com/

新理事長ごあいさつ

本地正治

私はこのたび令和2年5月22日付をもちまして当会の理事長に選任されました。戦争・被爆体験もなく、もとよりいたらぬ私でございますが、役員・会員の皆様方と力を合わせて、当会の設立時以降大変ご苦労された先人の皆様方のお取組みを忠実に踏襲して、動員学徒等の慰霊及び当会の護持に努めてまいります。

私の叔母の本地文枝が動員学徒として被爆死したことから、祖母、父母そして私と、3代にわたって当会でお世話様になっております。物心ついたころより祖母から、叔母の被爆時のことを何度も何度も涙ながらに語り聞かされ、私も共に涙したものでした。悲惨で苛酷な状況下で死を迎える娘を見送る母、そして息たえだえの中、健気にも母親を慮り逆に励ます娘、その時の母娘の心情たるや…漠然とながらも幼心に〝ノーモーア、ヒロシマ〟と強く思ったものです。

今年は、新型コロナウイルスの世界的な大流行により、経済、文化、教育、スポーツ、くらしなどの各分野において、未曽有の危機的状態に陥りましたが、感染拡大防止のための全国民の献身的取組により、今のところ何とか収束の方向に向かっているやに伺えます。しかしながら、現状はまだまだ予断を許さない状況に思えます。会員の皆様方に置かれましては、体調に留意され、できるだけ3密の状態を避けるなど、新しい生活様式の定着に積極的に取り組むなどして、今の閉塞的状態を無事乗り越えていただけるものとご祈念申し上げております。

また、今年は被爆後75年を迎えますが、被爆者健康手帳を持つ人は15万人を切り、平均年齢は83歳を超えました。当会の会員数も、当会が財団法人化した1978年（昭和53年）には約1500名でしたが、現在は約800名となっています。会員の減員及び高齢化に伴い、動員学徒及び遺族を中心とした当会の活動を、これからどのように継承していくのかという重要な課題につきましても、近い将来に解決すべく真剣に取り組んで参る所存でございますので、会員の皆さまを始め関係機関の皆さまからの、より一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

目　次

新理事長ごあいさつ …… 1
新役員紹介 …… 1
ごあいさつ・御世話になる方々 …… 2
小学生からのお手紙 …… 2
第64回原爆死没者追悼式のご案内 …… 3
令和元年度事業報告・収支決算 …… 3～4
面影を追って …… 5
広島市外派遣での伝承活動で感じること …… 5～6
「平和への祈りコンサート」に行ってきました …… 6～8
令和２年度行事予定表 …… 8

新役員紹介

5月の定時評議員会及び理事会において新たな役員等が選任されました。宜しくお願いします。

任期は、評議員は4年、理事及び監事は2年となっています。

理事長	本地	正治
副理事長	谷口	了子
評議員	福場	隆子
	渡	美津子
理事	寺田	博
	久村	和夫
	三木	島彦
	津田	久美子
	村輿	久美子
	寺前	宏晃
	国元	洋子
	井上	公夫
	村中	和子
	松浦	輝紀
	徳田	由子
	谷村	美智子
	武田	實智恵
	辻	靖司
監事	中尾	俊男
	早稲田	良子
相談役（退任者）	寺前	妙子
評議員	茨木	和子
	平野	みさ子
	日和	隼巳

ごあいさつ

広島県健康福祉局
社会援護課長
辻　和夫

この度、健康福祉局社会援護課長に就任し、援護行政に携わることになりました。よろしくお願い申し上げます。

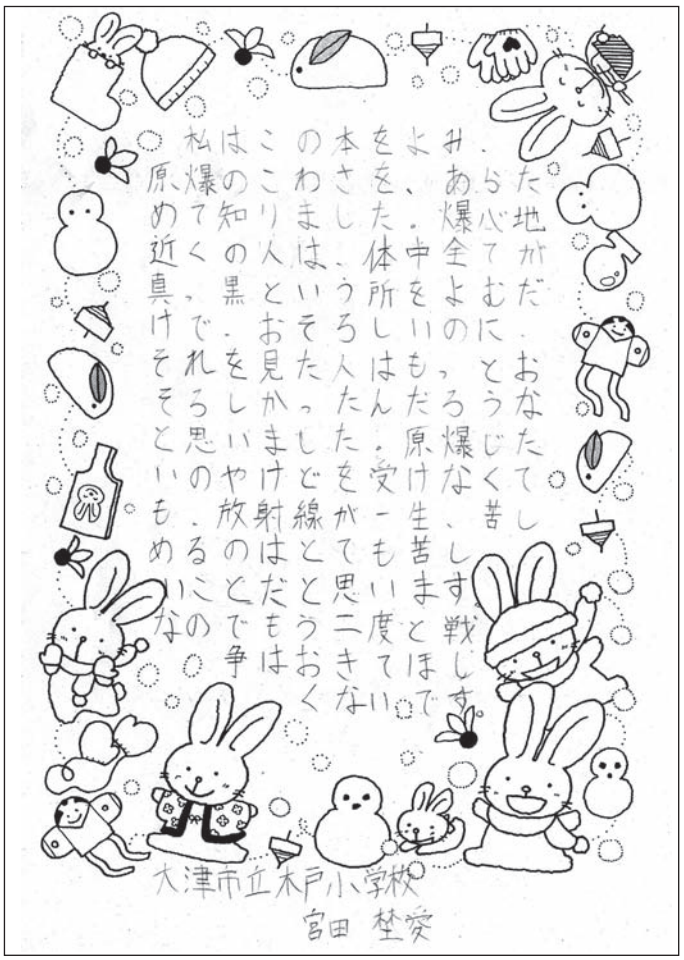
最愛の肉親を失われましたご遺族の皆様におかれましては、決して癒えることのない深い悲しみを胸に、多くの苦難を乗り越えてこられたところであり、その間の御心労と御苦労のほどは、察するに余りあります。

今年は多くの動員学徒の方々が犠牲となられました、先の大戦が終結して七十五年の節目の年に当たります。終戦から長い年月が経過し、戦争を直接知らない世代が多数を占めるようになり、人々の戦争の記憶が風化することが懸念されるところです。

戦争の惨禍を繰り返さないためにも、戦争の悲惨さや、戦没者の方々の尊い犠牲の上に今日の我が国があることを次の世代に語り継ぐとともに、再び戦禍により尊い命が失われることがないよう努めていかなければなりません。

本県では、援護関係施策のより一層の充実に向け、皆様とともに全力を傾けてまいる所存でございます。

終わりに、貴会の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。



大津市立木戸小学校　6年　宮田埜愛さんからのお手紙
（当会では、千羽鶴を献納していただいた学校等へ冊子「慟哭の証言」を寄贈しており、返信のお手紙をいただきました。）

お世話になる方々

広島県
健康福祉局長　田中　剛
社会援護課長　辻　和夫
援護恩給グループ
主査　山口　博幸
主査　岩井　明子
主査　舩石　幸恵
主任　青木　孝夫
主任　泉岡　幹雄
援護恩給グループ
電話　082－513－3036

広島市
健康福祉局長　山本　直樹
健康福祉局
保健医療担当局長　阪谷　幸春
健康福祉局
保健部医務監　宮城　昌治
健康福祉局
保健部保険年金課長　南部　克徳
健康福祉局保健部保険年金課
福祉医療担当課長　小松　祐子
健康福祉局保健部保険年金課課長補佐
（事）管理係長　長田　憲治
健康福祉局
保健部保険年金課主事　玉浦　遥
電話　082－504－2159
健康福祉局原爆被害対策部調査課
事務指導員（追悼式補助金担当）
山本　勝彦
電話　082－504－2191

第64回原爆死没者追悼式のご案内

巡り来る8月6日が近付いて参りました。午前9時から動員学徒慰霊塔の前において、会として第64回目の原爆死没者追悼式を執り行います。

お暑い時期ですが、お体にお気をつけくださいましてお参りください。

（コロナウイルス対策について）

マスクの着用をお願いします。

発熱や咳・咽頭痛などの症状のある方、過去2週間以内に発熱や感冒症状で受診や服薬をした方、過去2週間以内に感染拡大している地域や国への訪問歴がある方の参加はできません。

持病のある方や妊婦など、健康や体調に不安のある方は参加をお控えください。

なお、準備した席が満席となった場合は入場できませんので御了解ください。

受付で、お名前、御住所、連絡先の記入をお願いします。

令和元年度（平成31年度）事業報告書

1　広報活動の実施

(1)原爆死没者追悼式の案内

会報「ともしび第130号」の送付に合わせ追悼式の案内を送付した。

(2)会報「ともしび」の印刷・配布

・令和元年6月30日付け第130号　1、000部

・令和元年11月30日付け第131号　1、100部

広報部会を開催し、企画、編集を行った。

(3)ホームページの運用

ア　会報「ともしび」の掲載130号・131号

イ　アクセス数累計（令和2･3･31）：7、025件（31年度アクセス数806件）

(4)「慟哭の証言」を関係機関等に配布

慰霊塔に千羽鶴を献納していただいた学校等へ冊子「慟哭の証言」を送付した。

送付数：19件

(5)慰霊塔説明文の設置

慰霊塔の説明文を常時設置し、参拝者の理解の一助にした。（3万部印刷）

(6)動員学徒等の顕彰と会の設立趣旨の広報

慰霊塔の清掃日等を利用して、随時、参拝者に対して原爆、空襲、動員学徒等犠牲者の状況等について説明した。

2　第63回原爆死没者追悼式の挙行

日時　令和元年8月6日（火）午前9時から

場所　動員学徒慰霊塔前広場

実施内容　別紙のとおり

3　動員学徒慰霊塔の清掃・供花・英霊供養

月　日	参加者数	供養会（西向寺）
4月8日	22人	○
4月22日	19人	
5月2日	11人	○
5月7日	17人	
5月24日	18人	
6月6日	17人	○
6月20日	15人	
7月8日	22人	○
7月22日	13人	
8月5日	20人	○
8月20日	13人	
9月6日	22人	○
9月20日	14人	
10月7日	18人	○
10月21日	17人	
11月7日	18人	○
12月6日	16人	○
12月20日	20人	
1月10日	19人	○
2月6日	18人	○

3月6日	15人	○
3月25日	18人	

合計22回延382人参加

4　役員会等の開催

開催日	内容
31・4・22	監事会 平成30年度決算関係監査
元・5・7	理事会 議案第1号　平成30年度事業報告に関する件 議案第2号　平成30年度決算の承認に関する件 議案第3号　定時評議員会の招集の決定に関する件
元・5・24	定時評議員会 議案第1号　平成30年度事業報告に関する件 議案第2号　平成30年度決算の承認に関する件
元・7・8	理事会（原爆死没者追悼式の実施打合せ）
元・9・6	原爆死没者追悼式反省会
2・4・6	理事会・評議員会 議案第1号　令和元年度事業報告に関する件 議案第2号　令和元年度決算の承認に関する件

5　研修会の実施

(1)日時　令和元年12月20日（金）10時～11時

場所　西向寺門徒会館

内容　各自意見等発表（これまでの歩み、現在の状況、今後の課題など）

6　その他

(1) 慰霊塔の修繕及び周辺の環境整備

日時	工事名	工事内容	備考
元・7	水路蓋の取換え	慰霊塔前広場の水路蓋を交換	広島市

(2) コンサートの後援

「第二回平和への祈りコンサート～動員学徒犠牲者に捧ぐ～」の後援を行う。

日時　9月15日(日)午後3時開演

場所　東区民文化センター（広島市東区東蟹屋町10-31）

(3) 早稲田良子監事が永年勤続理事長表彰受賞（元・6・6）

(4) 谷口了子理事が県知事表彰受賞（元・10・21）

(5) 井上公夫理事長が厚生労働大臣表彰受賞（元・12・5）

(6) 会員数　令和2・3・31　760人

平成31・3・31　795人

令和元年度（平成31年度）　収支決算書（正味財産増減計算書）

平成31年４月１日から令和２年３月31日まで

（単位：円）

科　　目	当　年　度	前　年　度	増　　減	増減理由
Ⅰ　経常利益.経常費用				
1　経常増減の部				
(1) 経常収益				
事業収益				
追悼式典事業収益	346,500	329,000	17,500	
受取補助金等				
地方公共団体補助金	552,000	545,000	7,000	
受取寄付金				
受取寄付金	100,500	161,000	△ 60,500	
雑収益				
受取利息	52,029	53,312	△ 1,283	
雑 収 益	880,199	816,818	63,381	
経常収益計	1,931,228	1,905,130	26,098	
(2) 経常費用				
事業費				
会　議　費	0	1,336	△ 1,336	
旅費交通費	299,600	300,500	△ 900	
通信運搬費	213,979	213,285	694	
消 耗 品 費	229,804	236,698	△ 6,894	
修　繕　費	990,000	0	990,000	慰霊塔補修調査費増
印刷製本費	264,718	242,582	22,136	
光 熱 水 費	36,175	30,293	5,882	
保　険　料	8,500	26,830	△ 18,330	
委　託　費	394,000	394,000	0	
賃　借　料	0	0	0	
諸　謝　金	800,000	800,000	0	
支払負担金	105,144	104,248	896	
雑　　費	164,812	192,298	△ 27,486	
事業費計	3,506,732	2,542,070	964,662	
管理費				
会　議　費	0	2,000	△ 2,000	
旅費交通費	69,000	150,000	△ 81,000	
通信運搬費	85,851	40,000	45,851	
消 耗 品 費	49,012	20,000	29,012	
印刷製本費	4,802	4,000	802	
光 熱 水 費	0	0	0	
賃　借　料	0	0	0	
諸　謝　金	240,000	160,000	80,000	
公 租 公 課	21,000	21,000	0	
支払負担金	300,000	300,000	0	
雑　　費	260,616	550,000	△ 289,384	
管理費計	1,030,281	1,247,000	△ 216,719	
経常費用計	4,537,013	3,789,070	747,943	
当期経常増減額	△ 2,605,785	△ 1,883,940	△ 721,845	
2　経常外増減の部				
(1) 経常外収益		0		
(2) 経常外費用		0		

面影を追って

西村晴夫

去年八月十五日令和になって初めての終戦の日、全国戦没者追悼式が日本武道館でひらかれ、全国の遺族ら約六千五百人が参列し戦没者を悼みました。式典参列は私にとって積年の願望でしたが、「広島県動員学徒等犠牲者の会」のご尽力のお陰で参列いたしました。深く感謝申し上げます。

なお、戦時下の我が家の様子や集団疎開のこと、また長兄は崇徳中学三年生十六歳で被爆死しましたが、これらのことを思い出しながら綴りました。

昭和二十年、当時我が家は天神町（現在＝中島町）に七人家族で暮らしていた。その時期の衣食住、取り分け食糧事情は劣悪で、配給品は大抵大豆や大豆かす、干しいもなどで米は僅かであった。他方、空爆に備えるため、防火用水槽を置いたり座敷の下に防空壕を掘ったりした。また、夜、灯火管制のため、電灯に黒い布を掛け食卓を囲んだものだ。また、日中でも警戒情報や空襲警報が発令されるようになってきた。建物疎開は直ぐ近隣まで迫っており、我が家の立ち退きも早晩決まるところと思われる。

四月、私は六年生に進級したが、ほぼ同時に四年生（その後三年以上に変更）以上に対し、郡部に親戚などあるものは縁故先に、ない者は学校で組織する集団疎開に加わるよう疎開命令が下った。我が家は、私は集団疎開に、妹は母の実家に疎開することに決めた。集団疎開先は双三郡三良坂町の忠魂寺ほか八ヶ寺で、一部吉舎町へ行く。引率先生十九名、生徒は約三百名である。四月十三日多数の見送りを受けながら、芸備線で三良坂に向かった。宿舎である寺院は概ね町内毎に編成され、新学期から地元の三良坂国民学校に通学することになった。

疎開生活は、はやくも数ヶ月経ち不自由の中にも集団生活に慣れてきた。その日は朝から暑い日だった。突然、昼頃三良坂駅前にテントが張られた。列車が着く度に、けが人が降りてこられる。そしてそのうち、体中ホコリを被った女性が寺に来られるなり、「ヒロシマやられた」と何度も呟きながら、髪を漉かれながら、「それこんなに抜ける」と見せつけられた。そして、そのうち学友の手を取って寺を離れて行かれた。私達は何の事か分からない。しかし、次の日八月七日、先生が新聞を拡げながら「ヒロシマに新型爆弾が落とされた」と言われた。そして、その日を際に、保護者が次々と寺に来られ、口々に「ヒロシマ全滅じゃ」「全部焼けた」と言い残しながら学童と一緒に寺を出て行かれた。私は列車が着く度に駅に走るが、誰も声を掛けてくれない。私と同じようにションボリとした友人もおり、少し心細さを感じてきた。

八月の終わり「兄が行方不明のため探している。また七月末日建物疎開のため段原町に仮住まいしている。近々迎えに行く」と母からの葉書が届いた。その後、間もなく父が迎えに来てくれたが、その時兄の死亡を知った。

家に帰るとタンスの横に白い布に包まれた粗末な折り箱が置いてあった。兄の遺骨である。私にとって家族と久し振りの再会であるが、兄がいないので、家中哀しみに覆われていた。何か話題を変えても、いつの間にか兄の話になり、また、家中が暗く寂しい雰囲気に包まれる。まことに情けないことである。戸籍謄本によると、兄は可部町S寺で八月十一日午後九時死亡とある。被爆日から五日間も生きていたことになるが、この間、どのような容体だったのか。可部までの長い道のりをどのようにして辿り着いたのか、と思うと、胸が痛む。戦争反対を心に誓ったことは申すまでもないことである。

広島市外派遣での伝承活動で感じること

村興久美子

私は現在、寺前妙子さんの被爆体験伝承者として、原爆資料館での定期講話に加えて、広島市外でもお話をさせていただいています。今までに千葉、東京、神奈川、岐阜、愛知、大阪、愛媛、香川、の小・中・高校や市役所などからお招きをいただきました。

中京地方より西の学校では、広島市への修学旅行・平和学習の事前学習として呼んでいただく事が多く、生徒さん達も先生方も【原爆】について色々とご存じの事も多いという印象があります。その一方で、それより東の学校では、『今まで広島や長崎の原爆について、詳しい内容は一度も見聞きした事が無い生徒がほとんどです。』と言われる事が多いのです。

そんな中で、特に印象に残っているのは、昨年6月に修学旅行の事前学習として呼んでいただいた愛知県のある公立高校での事です。

最初に出迎えて下さった先生から「この学校は全日制と定時制があります。また、中学校時代や他校で学校生活に馴染めず編入してくる生徒も多く、外国籍の生徒も多く、10代から70代までの多種多様な生

徒が通う特徴のある学校です。そして、うちの学校には『衣替え』というのが無いんですが、何故だかわかりますか?」と言われ、その理由をお聞きすると、「手首にリストカットの傷を持つ生徒も多いので、あえて半袖を着なくても良いという配慮からなんです。」と言われました。また「保護者会では、日本語の分からない親御さんのために、いつも通訳の方にも入っていただくんですよ。」と仰いました。

当日は昼間定時制の2年生170名、先生10名への講話でしたが、日本語もあまり得意でない生徒さんもおられると直前にお聞きしたので、いつもの内容でお話しても大丈夫だろうかと、心配でした。それでも静かに最後まで聴いていただく事が出来ました。

終了後に、生徒代表としてお礼の言葉をくださった女子生徒さんは、「寺前さんが想像を絶する体験をされ沢山の病気と闘いながら、今も広島で頑張っていらっしゃる事を思うと…」と涙で声を詰まらせながら、「想像や文字だけでは追いつかない情報を、人の言葉で、絵や写真と共にそのまま私達に伝えて下さる伝承者の存在はとても大切だと思いましたし、一番心に届くものでした。私もこれから寺前さんの思いをバトンの様に伝えていきたいと思います。」と言われました。

また、後日届いた生徒さんからの感想の中には、次のようなものがありました。

『平和な環境で生まれ育ち、今がどれだけ幸せかをあまり考えたことがありませんでした。終わった戦争の事でも、親から子、子から孫へと伝えていく事が本当に大切だと思いました。私は外国人として今日聞いた話を今の自分の家族に、そして将来の子供にも話していきたいです。自分が今こうやって日本に居られるのは、昔の人（戦争で命をなくした人）のおかげでもあるなと思い、命の大切さをもっと深く考えたいです。』

『私は自分の事がとても嫌いで、今まですぐに「消えたい」とか「死にたい」とか思っていました。生きたくても生きられなかった原爆で亡くなった人たちのことを思うと、これからは軽々しく「消えたい」とか「死にたい」とか言わないように、その人たちの分も精いっぱい生きていこうと思いました。』

また、学年主任の先生からは『様々な問題を抱える生徒が多く、日ごろの授業になかなか集中できない生徒たちが、今回のお話を真剣に聞き入る様子を見て、私たち教員も日ごろの授業に対する姿勢をもう一度見直さなければと反省しました。生徒たちは今回のお話から自分の生活を振り返り、「生きる勇気」をいただいたように思います。』と有難いお手紙をいただきました。

市外派遣で伝承講話をさせて頂くたびに、「戦争の悲惨さ、核兵器の本当の恐ろしさについて初めて知りました。今の平和な一日が本当にありがたいと感じました。」と言われることが多く、私自身を含めていかに戦争や原爆について語り継ぐ事がなされて来なかったかを痛感します。

子供達のみならず、若い20～30代の先生が『戦争体験を聞くのは今回が初めてでした。』と言われたり、『今まで社会科の授業で戦争を起こした時代の学習を進めてきましたが、実際に被爆された方々の心や気持ちについては今回初めて知ることが出来ました。』とお手紙をいただいたりしました。また『現在、被爆者の方が広島市・長崎市以外の都道府県や海外にもいらっしゃるという事を初めて知りました。』と言われる社会科の先生もいらっしゃいました。

私自身、自分が体験したこともない戦争や原爆について、大した知識もないのに人前でお話をさせていただく事が良いのかどうか迷った時期もありましたが、市外派遣でお目にかかる沢山の方々から「語り継ぐ事の意味」を毎回教えて頂いているように思います。これからも自分なりに伝承活動を続けていく事が出来ればと思っています。

「平和への祈りコンサート」に行ってきました

三木島彦

（前号からのつづき）

4．月の光　ドビュッシー

日野さんのピアノの演奏を鑑賞します。ベートーベンの月光ソナタなどが有名ですが、この月は雲の間からのぞいている月の光を想像してくださいとのことでした。日本の古典の「花は盛りに月はくまなきをのみ見るものかは」の情緒ですね。あるいは水に映った月だそうですが、そういうものを愛でるのもすごく日本的な情緒で、それに倣った印象派の絵画の世界をドビュッシーが音楽で表現していると思います。目をつむって想像力を働かせます。静かでゆったりして心が休まります。

5．ハンガリアン舞曲第1番　ブラームス

日野さんとお友達の岩国の神尾友子さんがピアノの前に並んで座って演奏しました。ハンガリー舞曲集の21曲ある中で一番有名で多くの人が口ずさめるのは、第5番ですが、1番も同じように好い曲でした。ブラームスが連弾用にハンガ

リーのロマ（ジプシー）の音楽を編曲したそうです。NHKの「ららららクラシック」で取り上げられました。彼の出世作であったけれども盗作騒ぎで「作曲」を「編曲」と改めたこと、ブラームスが当時はやっていた連弾が大好きであったこと、二人で並んで演奏することは男女を近づけるきっかけになる、など面白い話が紹介されました。

6．日本の歌　童謡メドレー

前の曲と同様、お二人の連弾のピアノ演奏です。小学校で習った懐かしい唱歌14曲を、四季の順に並べています。みんな知っている曲ばかりです。さて「何があったかと挙げてみなさい」と言われると、何かのテストをされているみたいで苦手ですが、茶摘みの歌や、村祭り、「さぎりきゆるみなとえの」などの歌が頭の中で鳴り響いています。一つ一つが短くて、その代り網羅的でした。たくさんのおなじみの曲が入っているので、他のみなさんはどの唱歌を挙げるでしょうか。ちなみに普通にメロディーを演奏するのではなく、ちょっとおしゃれな演奏の仕方でした。

7．「女声合唱のための〝三陸鉄道〟より
詩：宇部恭子　作曲：上田　益
・村の子　・海女のうた　・とうさんの海　・三陸鉄道が行く
8．大切なふるさと

第二部は15分の休憩をはさんで、女声コーラス東広島女声ビアラクテアの人たちの合唱を聞きました。「ビアラクテア」を調べると「天の川」でポルトガル語でした。合唱団として雰囲気がある名前ですね。その通り「名は体を表す」です。指揮は広島で合唱の指導で知られている佐伯　康則先生です。声が美しく、素敵でした。「三陸鉄道」はNHKの朝ドラの「あまちゃん」で、その周辺の世界がよくイメージできます。東日本大震災からの復興を応援する歌です。詩の中に家族や行事の大切さ、子供の時のわくわくする気持ち、海の産物の名前、「ザアー・ザアー」という浜辺の波の音など歌いこまれていて心に残ります。家族を奪った海が嫌いになった人もいるのかなと想像してしまうのですが、それでも海が好きであることをやめません。なぜならおとうさんの背中を見て育った自分だから。よく言われることですが「にもかかわらず」の気持ちをどんな時でも持っていたいです。しっかり生きてゆく力になります。タイトルの鉄道の歌は元気ではつらつとしたものでした。「大切なふるさと」はもう言わなくてもいいですね。その名前の通りだから…東北の合唱で子どもたちが歌っていて、これも実にいいです。

9．春の声　ヨハン・シュトラウス

ソプラノの安藤　裕美さんは、国泰寺中学の同級生の三宅さんの娘さんです。同級生の仲間たちは、ちょっと前に還暦を過ぎて60代なので、初めてずいぶんと若い人が出て来ました。声量が豊かで、盛り上がるところの高音がすばらしかったです。曲も華麗豪華なヨハン・シュトラウス2世のワルツで、外国映画の舞踏会の場面（日本では明治の鹿鳴館の場面）でかかる曲ですね。

10．アメイジング・グレイス

歌は嶋田トオルさん、ピアノとヴィオラによる演奏です。こんな罪深い私でも神様は許してくださったという感謝と喜びが歌われています。キリスト教徒の神様でなくても、仏教の阿弥陀様でも感じがわかります。詞を作った人は元奴隷船の船長で、牧師になった人と説明され、なるほどと納得した思い出があります。彼の船が難破しかかって死ぬような目に遭って生還して、それをきっかけに改心したわけです。こうした船は船底に衛生状態も考慮せず大勢押し込んで、たくさんの黒人の人を死なせています。人権の尊重と平等をうたった人権宣言、アメリカ独立宣言の後なのに…この人はすぐにこの仕事をやめたのではなく、何年間か続けた後でやめました。もともとお母さんが慈しみ深く宗教心のあつい人であったことが、他のひとと違う行動を取るきっかけになったと思います。

11．たいせつなひと　さだまさし

嶋田トオルさんが歌いました。伴奏はピアノとヴィオラです。とてもいい歌でした。題名が全てを物語っています。もともと人生は幸せと不幸せがないまぜになっているもの。初めと終わり、真ん中のところで繰り返される言葉が心に残ります。「その手を離さないで　不安が過ぎゆくまで　哀しみのほとりで出会った　その温かい手を」

12．リベルタンゴ　ピアソラ

日野さん、神尾さんのピアノの連弾で始まって、主旋律を奏でるヴィオラによる演奏が加わります。ピアソラ（1912－1992）は、アルゼンチンの作曲家、バンドネオン奏者。この曲はサントリーのウィスキーのテレビのコマーシャルで、世界的なチェロ奏者であるヨーヨーマさんの演奏で一気に知名度があがりました。テレビのコマーシャルではじめて知って、覚えている曲も多いですね（ヨーヨーマさんは8月6日の広島、灯ろう流しの元安川のほとりでチェロの演奏をしたことがあります。2000年8月6日バッハ無伴奏チェロ組曲）。加藤登紀子さんが歌詞を付けて歌っています。歯切れよく、テンポがあって情熱的な曲です。

13．埴生の宿（アンコール曲）

埴生（はにゅう）の宿というのはちいさくて土を塗ったようなぼろっちい家でも、やっぱり我が家が良いという歌なんですね。市川　崑監督が奥さん和田夏十の脚本で二回撮った「ビルマの竪琴」のストーリーで重要な役割を果たす曲です。映画の中で水島上等兵（演じたのは安井昌二、中井貴一）が竪琴を演奏して小隊のみんなで合唱すると、彼らを取り囲んでいたイギリス兵、インド兵も自然発生的に自分たちの英語でこの歌を歌い、唱和するという場面があります。故郷や家族を思う気持ちはみんな同じなんです。

出演者のひとがみんな出て、観客席のひとも全員がプログラムに挟んであった歌詞を見て、声を揃えて歌いました。最後にまた一体感が持てて、気分が高まりました。本当にこのコンサートのおかげで楽しい時間が共有できたと思います。観客席から袋町小学校の同級生の川西さんと従姉妹の井上美雪さんのお二人が出て、伴奏の楽器のオカリナで演奏に加わりました。

令和２年度　行事予定表

一般財団法人　広島県動員学徒等犠牲者の会

年	月	日	曜	清掃後読経	月	日	曜	清掃（行事がないときは解散）
令和2年	4	6	月		4	20	月	監事会（県社会福祉会館）
	5	7	木	理事会（西向寺） 令和元年度（平成31年度）事業報告･決算の承認	5	1	金	
					5	22	金	定時評議員会（西向寺） 令和元年度（平成31年度）事業報告･決算の承認
	6	10	水		6	22	月	
	7	6	月	追悼式打ち合せ会（役割分担等） 会報「ともしび」封筒入れ（西向寺）	7	20	月	
	8	5	水	供養会	8	20	木	
		6	木	第64回原爆死没者追悼式				
	9	9	水	追悼式反省会（西向寺）	9	18	金	
	10	7	水		10	21	水	
	11	9	月		／	／	／	
	12	7	月	会報ともしび封筒入れ（西向寺）	12	18	金	研修会（西向寺）
令和3年	1	6	水		／	／	／	
	2	10	水		／	／	／	
	3	11	木		3	24	水	理事会･臨時評議員会（西向寺） （令和3年度事業計画・予算承認）

（注）
1 慰霊塔付近の清掃は、午前９時30分からです。雨天の場合も実施します。
2 左欄は、慰霊塔付近の清掃後「西向寺」で読経。
　右欄は、行事がないときは清掃後解散。
　なお、「西向寺」様の都合によって、日程変更する場合があります。

ご寄付お礼

令和元年11月から令和２年６月までに、次の皆様から貴重なご寄付をいただきました。ご厚志、誠にありがとうございました。

森下　弘　様
梶川　博　様

ご寄付いただく際には、左記の口座へお振り込みください。
ゆうちょ銀行
振替口座　０１３００－６－８８５８
一般財団法人　広島県動員学徒等犠牲者の会

あとがき

先日、為末大さんが、私が購読している朝刊に、こんな記事を寄せていました。

『東京五輪は全く別のものになった。コロナに打ち勝った人類共通の証しとして、聖火が掲げられる大会に変わった。聖火を日本に閉じ込めないで、コロナを鎮静化した国・地域に持って行き、「地球上のすべての国・地域に聖火が灯された時、開催する。」とかってできないかな。世界中の人々が「私たちの五輪」と思えるようになるだろう。』

スポーツ番組で、明朗快活にわかりやすくコメントしている為末さんらしい、本当にそうなったらいいなーと、誰もが共感できる、明るく大きなご意見だと思いませんか？

（本地正治）